

令和5年度学校関係者評価報告

※評価の基準 4:十分達成された 3:概ね達成された 2:やや不足点がある 1:ほとんど達成されていない

評価項目	評価指標	学校自己評価コメント	令和5年度自己評価	令和4年度自己評価	令和5年度学校関係者評価	令和4年度学校関係者評価	学校関係者評価のまとめ	
1 踏障 まが えい たの 専 状 態 性 や の 特 高 性 い 等 教 育	1-① 児童生徒や保護者のニーズに応じた個別の指導計画を作成し、指導に活用している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒一人一人の実態把握を丁寧に行った上で活動内容、支援方法を検討し、作成した個別の指導計画を保護者と共有した上で教育活動に取り組むことができた。</li> <li>○ 昨年度のICT研究で重点的に取り組んだICT関連の教材を授業実践に活用できた。</li> <li>○ 作成した教材教具を職員間で共有できるようなシステムを作り、効果的に活用することができた。</li> <li>● 個別の指導計画作成等の目的や記入の仕方、運用等については、職員間での共通理解を図るとともによりよい活用に向けて、今後も検討・改善が必要である。</li> </ul>	3 (3.1)	3 (3.2)	4 (3.6)	4 (3.6)	○ コロナ禍を乗り越えて、個々に応じた専門性の高い教育に取り組んでいることが自己評価の高さから伺える。その一方、学年が上がるにつれ、より効果的な指導計画の在り方が求められていると感じた。	
	1-② 根拠に基づく指導が行われるよう、実態把握や指導計画の作成、評価を行っている。		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ICTを活用した教育については、成果が着実に現れてきている。小学部からタブレット等に触れる環境が整っている。より有効な学習ができるように研究を継続し、児童生徒のために役立てていただきたい。</li> </ul>	3 (3.3)	3 (3.2)	3 (3.4)	3 (3.4)	○ 個別の指導計画については、先生方が児童生徒の一人一人の特性を把握するとともに保護者のニーズを加えて、適切な計画のもと柔軟に対応している。また次年度へ指導内容がしっかりと引き継がれるよう工夫改善が必要と考える。
	1-③ 学習効果を高めるために教材教具の工夫や改善を行っている。		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校と寄宿舎とが日常的に連携を図り、共通した指導方針で対応することができた。これにより、生徒の安定した学校生活につながった。</li> <li>○ 職員研修については、外部講師を招聘し、校内課題研究のテーマに沿った知的障がい教育における指導の在り方や学習評価の考え方に関する専門研修を実施できた。今後も職員の資質向上につながる研修に、積極的に取り組んでいきたい。</li> <li>○ 児童生徒の自立に向けた日常生活の指導がきめ細かく実施されていた。校内課題研究をとおして、小中高の系統性のある指導内容の必要性についても確認を行うことができ、一貫した指導の推進につながった。</li> <li>○ コンプライアンス校内研修で、全職員で学校の課題を自分事として捉え、対策等を共通理解することができた。</li> <li>● 引き続き、特別支援教育の専門性について基礎から応用まで職員の資質向上につながる研修が必要である。特に発達障がいについて、強度行動障がい等の指導の在り方や考え方について深める必要がある。</li> <li>● コンプライアンスについては、金銭の管理の面で、保護者からの徴収金の取り扱いと管理方法について整理が必要である。</li> </ul>	3 (3.2)	3 (3.2)	3 (3.2)	3 (3.2)	
2 組 様 織 々 な で 課 柔 題 軟 に 性 対 の 応 あ し た 教 育 的	2-① 学校、家庭、寄宿舎が連携して効果的な指導を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校と寄宿舎とが日常的に連携を図り、共通した指導方針で対応することができた。これにより、生徒の安定した学校生活につながった。</li> <li>○ 職員研修については、外部講師を招聘し、校内課題研究のテーマに沿った知的障がい教育における指導の在り方や学習評価の考え方に関する専門研修を実施できた。今後も職員の資質向上につながる研修に、積極的に取り組んでいきたい。</li> <li>○ 児童生徒の自立に向けた日常生活の指導がきめ細かく実施されていた。校内課題研究をとおして、小中高の系統性のある指導内容の必要性についても確認を行うことができ、一貫した指導の推進につながった。</li> <li>○ コンプライアンス校内研修で、全職員で学校の課題を自分事として捉え、対策等を共通理解することができた。</li> <li>● 引き続き、特別支援教育の専門性について基礎から応用まで職員の資質向上につながる研修が必要である。特に発達障がいについて、強度行動障がい等の指導の在り方や考え方について深める必要がある。</li> <li>● コンプライアンスについては、金銭の管理の面で、保護者からの徴収金の取り扱いと管理方法について整理が必要である。</li> </ul>	3 (3.2)	3 (3.2)	3 (3.4)	3 (3.4)	○ 小中高一貫した教育指導の取組のほか、寄宿舎との統一した対応が図れている。重要な取組であるので、今後も継続した取組を期待している。また、令和8年度には、寄宿舎が明星視覚支援学校の敷地内に移転する計画のため、生徒や保護者が混乱しないようにしっかりと計画を進めていただきたい。	
	2-② 課題研究の内容は適切で、今後の指導に役立てるための研究になっている。		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職員研修については、職員の評価が高い。今後とも積極的、計画的に取り組む職員の資質向上に努めていただきたい。</li> <li>○ 多くの児童生徒一人一人の障がいの状況や特性、発達の違いなどに対する教育は大変な苦労もあると思うが、一人一人の児童生徒が「笑顔」「力」「夢」をいっぱいもてる学校にこれからも尽力いただきたい。</li> </ul>	3 (3.1)	3 (3.0)	3 (3.4)	3 (3.0)	○ 保護者からの徴収金の取り扱いについては、適切な対応をお願いしたい。
	2-③ 職員研修の内容は適切で、専門性や資質の向上を図っている。		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 行事等での他学部との関わりを設けることについては、ハード面などの課題も影響しているため難しい面もあると思うが、生徒と保護者にとって、将来の姿をイメージする良い機会になると思われる。小中高一貫したキャリア教育の一つとして、学部を超えた異年齢の交流に可能な限り取り組んで欲しい。</li> <li>○ 進路支援に向けて、高等部での産業現場等や企業等での実習に積極的に取り組んでいる。また、事業所説明会や卒業生の就労報告など、とても有意義な取組である。卒業後の就労などの進路支援は難しい面もあると思うが、今後とも充実を図って欲しい。</li> <li>○ 特別支援学校だけでなく学校教育の最終的な目標は「自立」と「社会参加」だと考える。高等部卒業生が、それぞれに自分の障がいにあった進路先に進めることは、本校のキャリア教育の賜物と考える。卒業後の自立に向けて、「作業学習」や「進路学習」「進路指導」などの、さらなる充実をお願いしたい。</li> </ul>	3 (3.3)	3 (3.1)	4 (3.6)	3 (3.4)	
3 小 中 高 一 貫 し た キ ャ リ ア 教 育	3-① 児童生徒の自立と社会参加を目指し、小中高一貫したキャリア教育の推進している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ PTA総会や参観日、学校行事等を予定どおり実施でき、保護者が子供たちの様子を直接参観できる機会を多く設けることができた。一方、児童生徒数に対する駐車場や体育館の収容人数等の施設面の課題のため、行事や参観日が学部別開催になり、他学部を知る機会がなかなか確保できていない。</li> <li>○ 進路に関する情報収集の場として事業所説明会を開催し、多くの保護者や生徒の将来の進路に関する理解を深めることができた。また、就労している卒業生から、学校と職場の違いや就労してのやりがい、苦労などを在校生に直接伝える機会を設けることができた。</li> <li>● 他校への体験入学や進路相談の進め方について職員間で共通理解し、保護者にも周知徹底を図る必要がある。</li> <li>● 教育活動の中で、小中高の児童生徒が関わる行事の機会が不十分である。小中学部にとっては、よいお手本、将来の見本として具体的な姿を見て学ぶ機会を設ける必要がある。</li> </ul>	3 (3.0)	3 (2.9)	4 (3.4)	3 (3.2)	○ 行事等での他学部との関わりを設けることについては、ハード面などの課題も影響しているため難しい面もあると思うが、生徒と保護者にとって、将来の姿をイメージする良い機会になると思われる。小中高一貫したキャリア教育の一つとして、学部を超えた異年齢の交流に可能な限り取り組んで欲しい。	
	3-② 個々のニーズに応じた進路指導や進路相談等を行っている。		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 進路支援に向けて、高等部での産業現場等や企業等での実習に積極的に取り組んでいる。また、事業所説明会や卒業生の就労報告など、とても有意義な取組である。卒業後の就労などの進路支援は難しい面もあると思うが、今後とも充実を図って欲しい。</li> </ul>	3 (3.2)	3 (3.1)	4 (3.8)	4 (3.6)	
	3-③ 保護者や関係機関と連携した進路支援の充実を図っている。		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別支援学校だけでなく学校教育の最終的な目標は「自立」と「社会参加」だと考える。高等部卒業生が、それぞれに自分の障がいにあった進路先に進めることは、本校のキャリア教育の賜物と考える。卒業後の自立に向けて、「作業学習」や「進路学習」「進路指導」などの、さらなる充実をお願いしたい。</li> </ul>	3 (3.2)	3 (3.1)	3 (3.4)	3 (3.4)	

4 地域情報 からの 信頼感 が及ぶ 保護者 づくり	4-① 地域の資源や人材を生かした学習活動に取り組んでいる。	<p>○ 学校間交流や居住地校交流、高校生発の「心のバリアフリー事業」による交流活動を、昨年度より多く実施することができた。学校間交流では、相手校を訪問しての直接交流を多く実施することができ、双方にとって有意義な取組となった。</p> <p>○ 「学校支援アドバイザー事業」において、外部講師を招き、具体的な支援方法のアドバイスをもらい児童生徒の支援に生かすことができた。</p> <p>○ 国際交流でALTや防犯関係で警察の職員、その他、関係機関の方を講師に招いて様々な教育活動を展開し、多くの地域資源や人材を生かした学習活動の実施に努めることができた。</p> <p>● 居住地校交流では、交流回数が増えた分、交流相手校との日程調整の難しさや、交流活動の準備、運営等での相手校との役割分担の在り方が等が課題になった。</p>	3 (2.9)	3 (2.8)	4 (3.6)	3 (3.2)	<p>○ 入学時には戸惑いや悩みを抱えた保護者も、御校の学校教育に触れ、次第に信頼感が増していると思う。これまでのように12年間の一貫した教育を推進し、高等部卒業時に「自立できる生徒」を一人でも多く育てていただきたい。</p> <p>○ 生徒の個性豊かな作品に触れることのできる「ゆめいろステーション」は、大変有意義で学校と地域、保護者にとって貴重な機会である。それだけに「第2回」の展示場所がわかりにくく、昨年度より会場が狭く分散していたのは残念であった。今後、開催場所の見直しも必要かと思われる。開催を継続していただき、すばらしい作品を多くの方に観てもらい学校や児童生徒の情報を発信してほしい。</p> <p>○ 保護者アンケートの回答率が5割を切っていることは問題である。今後のアンケート方式の見直しが必要だと考える。</p> <p>○ 他校との交流や、仕事チャレンジでの地元駅の清掃や事業所の現場実習など、地域の様々な社会資源を積極的に活用している。今後も工夫して地域の資源を活用し、継続した取組を期待する。</p>
	4-② 保護者や地域に学校の取組や必要な情報を伝えている。		3 (3.4)	3 (3.1)	3 (3.2)	3 (3.0)	
	4-③ 近隣の小中学校等との学校間交流や居住地校交流を推進している。		3 (3.1)	3 (2.9)	3 (3.2)	3 (3.2)	
5 育の地 域の タ特別 的支援 機能	5-① 地域の小・中学校等に特別支援教育に関する相談や情報提供を行っている。	<p>○ チーフコーディネーターが中心となり、地域の学校等に出向き必要なアドバイスや助言を行うことができた。教育相談会を実施して今年度は、地域の小中学校から特別支援教育に携わる職員の参加が多くあり、アドバイスや助言を行うことができた。</p> <p>● 家庭支援が必要な家庭のケースでは、医療・福祉等の関係機関と情報共有し、連携を図りつつ支援を進めている。</p>	3 (3.0)	3 (3.2)	4 (3.8)	3 (3.2)	<p>○ 家庭機能が低下する傾向にあり、医療や福祉、教育などの支援が必要な家庭が増えている。様々な関係機関が連携しても解決が難しいこともあり、支援学校としての対応にも限界があると思うが、福祉や医療機関等、関係機関との連携に努めてほしい。</p> <p>○ 県内の小中高校ともに、特別な配慮を必要とする児童生徒が増加している。そのため少子化の中にもかかわらず、特別支援学級は学級増になっている。地域の特別支援教育をリードする学校として、地域の小中高校への指導や支援、必要な情報提供など、特別支援教育のセンターとしての役割に引き続き取り組んで欲しい。</p>
	5-② 福祉や医療機関等、関係機関との連携を図っている。		3 (3.3)	3 (3.2)	3 (3.4)	3 (3.4)	
6 の安全 整備・ 安心な 教育環 境	6-① 施設や設備は安全に管理・維持されている。	<p>○ 施設設備の定期的な点検に加えて、全職員による、臨時的点検を実施した。その際、危険箇所や生徒の安全面での対応が必要としてあげられた箇所については、早急に安全対策を取った。職員不在時の特別教室の施錠等についても全職員の共通理解を図り、安全な学校環境の維持に努めている。</p> <p>○ 火災や地震の避難訓練、引き渡し訓練、不審者対応の研修等を実施し、緊急時の対応を全職員で確認した。</p> <p>● 施設、設備の老朽化に伴い、撤去や補修、舗装が必要である。廊下に置いてあるものや掲示物の見直しなど、安心安全に児童生徒が教育活動を行うために職員の意識の持ち方や工夫、改善も必要である。</p> <p>● 福祉指定避難所の運用の在り方については、今後も宮崎市と連携し取り組んでいく必要がある。</p>	3 (3.1)	3 (3.0)	3 (3.0)	3 (3.2)	<p>○ 生徒の転落事故があり、事故防止に向けて様々な対策がとられている。今後とも全職員間で安全管理に対する情報の共有、危険箇所の共有に努めていただき、引き続き気を引き締めて取り組んでいただきたい。また、環境面の安全対策はもちろんのこと、児童生徒一人一人に自分の命を大切にす意識を高める指導についても継続をお願いしたい。</p> <p>○ 令和9年度、開校予定の高等支援学校整備計画において、今後、新しい校舎の建設工事等が行われる。工事中の事故や工事車両の通行による事故など、十分に児童生徒への配慮をお願いしたい。</p>
	6-② 災害や不審者対応等、緊急時の対応が整備されている。		3 (3.1)	3 (3.2)	3 (3.4)	4 (3.6)	